



棧橋ということばが出ましたので、今度は喬について調べてみましょう。

喬は^{ヨウ}天と^{コウ}高との合字で、音も kô と yô で kyô です。天

は、で、頭の曲がった人の象形です。従って、喬は、高くそびえて、上の方の曲がっていることを表わした部首です。

「喬木」「喬松」など、単に“高い”意味に使いますが“そりかえる”意味から“威ばる”という意味にも使います。

橋は、まん中が高く、そり返った形（アーチ形）の“たいこ橋”が本義です。力学的に丈夫な形なので、昔からこの形の橋が多いのです。今では形、材料に関係なく使われます。石橋。鉄橋。

驕は、背の高い馬の意味ですが、“いきおいが良い”ことから、“おごる”“たかぶる”意味に使います。驕慢。

嬌は、スタイルの良い婦人が本義で“なまめかしい”ことですが、驕と同じく、“たかぶる”意味にも使われます。嬌笑。愛嬌。

蕎は、背の高い草の意味の字で“そば”のことです。そばの茎は、高くなるので、この字ができました。

僑は、華僑などと使われる字ですが、喬は、（建物）を表わしたも

のです。従って、僑は“人が建物にやどる”ことを表わした字です。“仮のやどり”の意味に使います。華僑はこの意味です。

矯は、“先の曲がった矢”という意味になりますが、これはそうではありません。曲がった矢ではあたりませんから、必ず“まっすぐにため”て使います。だから“曲がっている”という意味（矯偽）と“ためる”意味（矯正）とあるのです。

高は、で、高い建物の象形により“たかい”ことを表わした指事字です。僑では、象形字として“建物”を表わしました。